

早稲田大学 早稲田大学 総合人文科学研究センター

「行動・社会文化に関する多角的アプローチ」部門主催 2019 年度 勉強会 報告書

日時：2020 年 1 月 9 日(木) 15:00～19:00

場所：33 号館第 10 会議室

プログラム

15:00-17:00 実技実地研修（脳波電極装着法の実技実演および脳波測定の実際）

諏訪園 秀吾(独立行政法人国立病院機構沖縄病院 脳・神経・筋疾患研究センター センター長)

17:10-18:00 早稲田大学 日野研究室 データ発表

橘 光貴（早稲田大学文学研究科修士課程 1 年）

手嶋 樹里（早稲田大学文学部 4 年）

18:00-18:30 脳波測定・事象関連電位の意義—筋ジストロフィーなど神経疾患における応用

諏訪園 秀吾(独立行政法人国立病院機構沖縄病院 脳・神経・筋疾患研究センター センター長)

18:30-19:00 呼びかけに対する脳反応

荒生 弘史(大正大学)

研究部門「行動・社会・文化に関する多角的アプローチ」主催による勉強会「脳波を用いた脳科学研究の実践」が 2020 年 1 月 9 日に開催された。これまで、当該研究部門においては、脳の電氣的活動である脳波の測定を行うことで、ヒトの行動の背後に潜む心的メカニズムを生理学的に明らかにすることを目指してきた。脳波測定においては、電極等の機器を正確に装着できるか否かが、測定の精度や効率を大きく左右することが知られている。しかし、これまで当該部門では、実践的な脳波測定の実技指導を受けた研究者がいないために、高精度で効率的な測定が困難であるという問題を抱えていた。

今回、沖縄病院の諏訪園秀吾先生より、脳波測定を実施する際の効果的な機器装着方法や、実験時に注意すべき点に関する知識の提供を受けた。なお、諏訪園先生は沖縄病院における脳・神経・筋疾患研究センター センター長として、脳波測定による心理学研究や臨床検査に深く関わってこられた人物である。今回の知識提供により、「行動・社会・文化に関する多角的アプローチ」部門の研究者は脳波測定のノウハウを獲得できたため、今後は脳波データを高精度かつ効率的に収集することが可能になると考えられる。このことは脳波測定による実験の実施を促進し、当該部門における脳波研究の進展につながる事が期待される。

また、今回の勉強会では、日野研究室の大学院生や学部生による研究内容の発表も行われ、脳波研究の専門家である諏訪園秀吾先生らとのディスカッションを通して、研究内容のシェイプアップを行うこともできた。また、その後、沖縄病院の諏訪園秀吾先生と大正大学の荒生弘史先生が遂行されている最先端の脳波研究についてご発表頂き、脳波測定・事象関連電位を用いて筋ジストロフィーなど神経疾患に応用する方法や、呼びかけに対する脳反応について最新の知見をご紹介いただき、研究部門構成員との議論によって脳波の応用研究についての理解を深めることができた。